

みうら のぶお 議員
(公明党)



なくなって初めて不便さに気付く存在

ゴミ収集業務の人員体制と非常時対応

Q ゴミ収集業務における通常時の委託体制および人員体制について、市の認識を伺う。

A 市内でゴミ収集運搬の許可を有する5社で構成される協同組合と契約を締結し、人員としては、5社に所属する約80名の従事者により、継続的に収集業務を行っている。

Q 通常時の体制を踏まえ、火災や地震などの非常時におけるゴミ収集業務の対応と、その想定について伺う。

A 本市では令和4年に「災害廃棄物処理計画」を策定し、市と関係団体との連携方法や連絡体制を整理している。発災後においては、被害状況を踏まえ、市が収集運搬車両の確保や収集ルートを検討を行うとともに、災害廃棄物については、仮置場への集約搬入を行うこととしている。収集車両や人員が不足する場合には、協定に基づき関係団体などに対し支援を要請し、状況に応じた体制強化を図りながら対応する。

郵便ポスト新規設置要望の対応

Q 市民が直接郵便局へ要望する事は心理的なハードルがある。最も身近な行政窓口として、市が要望を受け止め、日本郵便へ伝える仕組みをより明確にすることはできないか。

A 市に郵便事業への要望を直接受け付ける窓口は無いが、さまざまな困りごとを相談できる窓口として設置している「よろず相談」や「市長への提言」などで要望をいただいた際には、日本郵便側へ伝えていく。



こやま だいすけ 議員
(政策 TODA)



循環型経済の推進

Q サーキュラーエコノミーの考え方を踏まえ、本市で行われてきた資源循環の取り組みについて伺う。

A 戸田ロールや、民間事業者と連携したペットボトルのボトル to ボトルなどの取り組みを進めている。

Q 資源循環を環境施策にとどめず、事業者連携により新たな経済を生み出す視点で整理・発信すべきでは。

A 市民や事業者に分かりやすく発信するとともに、商工会などとも連携し効果的な周知について検討する。

Q 小中学校と連携した環境学習の取り組みを伺う。

A 出前講座などを通じ環境学習を実施しており、今後も資源循環の理解促進に努める。

市所蔵絵画の活用

Q 市が購入し、保有する絵画の展示と管理の状況は。

A 絵画は117点あり文化会館などで展示している。未展示作品は郷土博物館で保管している。

Q 公共施設でも展示し、多くの市民や子どもたちが文化芸術に触れる機会を広げるべきと考えるが。

A 保存管理の観点から課題はあるが、展示の入替やPRなどによる鑑賞機会の拡充を検討していく。

新曽小通り安全対策

Q 新曽小通りは地域住民も利用する生活道路である。夜間の照明が暗く安全面で不安があるが、市の対応は。

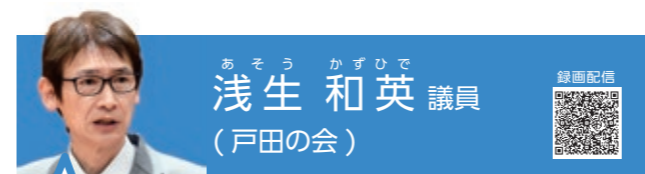
A 照明灯の経年劣化が確認されたため修繕を行う。

Q 新曽小学校周辺では鳥のふんによる歩道の汚れなど環境面の課題が見られるが、市の対応を伺う。

A 現地確認の上、清掃を実施し、電線管理者へ鳥よけ設置を要請するなど道路環境の改善に努める。



鳥のふんで汚れる通学路の現状です



あそう かずひで 議員
(戸田の会)



議長を終え初心に帰り、市民の声を届けます

住民票は命綱！ 消除後の孤立防いで

Q 住民票は医療や教育、選挙権を守る命綱である。特に未成年の場合、注意が必要である。職権消除により孤立する高齢者や子どもの安全確保のため、行政の網から漏らさない全世代の支援と、再登録に向けた窓口での生活再建支援を強く求める。

A 現地調査などで慎重に実態を把握し、18歳未満の子供は、関係部局で情報共有を行い、より慎重に判断する。住民票を回復する際には、窓口での丁寧な聞き取りから福祉部門などへつなぎ、迅速な住民票の回復と継続的な相談対応を行う。

広域連携で人材育成、市民の幸せへ

Q 生成AIの活用やDX推進など複雑な課題に対応するため、広域連合の研修活用で職員の資質向上を図り、市民サービス向上につなげるべきである。

A 他市職員との交流で視野を広げ、住民の利益を第一に柔軟な発想で行動できる職員を育成する。自ら課題解決に挑む姿勢は本市の強みであり、成長し続ける「人」と「街」を創るべく、研修を最大限活用する。

産後の空白を埋め「孤立」の予防を

Q 常任委提言の「産後3カ月の空白」を埋めるため、待つ支援から、おせっかいな「つなぎ役」が親同士をつなぐ支援への転換と、孤立予防の強化を求める。

A 孤立対策として拠点の「つなぎ役」を育成する。来年度から1か月児健診への助成により、心身の不安を早期把握し、保健師の支援へつなぐとともに、産婦支援の各事業の充実により見守り体制を拡充していく。



のざわ しげまさ 議員
(戸田の会)



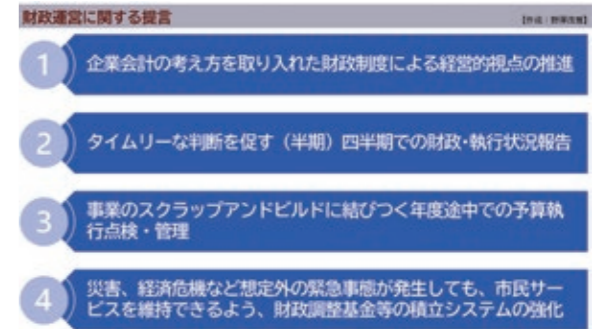
戸田公園駅～ポートコースー帯の夢を描こう

本市会計制度における企業会計手法

Q 本市の会計は公会計（現金主義・単式簿記）を採用しているが、事業コストが一層「見える化」する企業会計手法（発生主義・複式簿記）導入の状況を伺う。

A 地方公会計制度のもと、現金主義会計を補完する企業会計的手法として、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書を作成している。

意見 これらの財務書類を1年後ではなく、半年ごとに作成することを提案する。これにより将来リスクを早期に把握し、資産の更新・維持管理や将来負担を見通した意思決定が可能となり、中長期の資産管理・財政計画・事業計画を、計数的に的確に見通すことができる。



戸田公園周辺ブランディング事業

Q 戸田公園周辺ブランディング事業は、戸田公園と漕艇場の大きな「発展の第一歩」と考えるが、詳細は。

A 令和8年度は地域関係者を交えたワークショップなどによる魅力創出のアイデア出しや地域の現状リサーチ、令和9年度以降に実施予定のプロモーションやPRについての戦略の策定を予定している。

意見 ローイング競技の進化と活性化を目指す「ボートのまちづくりコンソーシアム」と連携し、戸田公園駅から県立戸田公園一帯のポテンシャルを十二分に引き出す魅力がある「ランドデザイン」を描いてほしい。

わがまちのスポーツチームとの連携

Q 包括連携協定を結んでいるラグビー、ソフトボールのチームに追加して、ローイング・チームとの連携は。

A ローイング・チームを市ホームページで周知するなどの支援を行い、競技全体の応援機運の醸成を図る。